

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1272401173
法人名	株式会社デシジョンケア
事業所名	グループホームぬくもりの家君塚
所在地	千葉県市原市君塚3丁目22番地1号 (電話) 0436-23-6826

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(20年9月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨または鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他	食費45,000円, 水道光熱共益費15,000円, オムツ・理美容等実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり1,500円			

(4) 利用者の概要(9月27日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	76歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎗田病院 五井病院 高橋歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な雰囲気を大切にされた2ユニットのグループホームで、1階はデイサービス、2階がグループホームぬくもりの家君塚である。デイサービスの門をくぐり芝生とプランターがある中庭の横に、ホーム入り口がある。家庭的な雰囲気のあるリビングダイニングは、入居者と職員が自然に会話ができるような家具の配置になっている。ユニット間の職員のコミュニケーションも良く、1階のデイサービスとの交流もあり、夏には合同でバーベキューを行っている。関連施設には高齢者福祉施設ぬくもりの郷、ケアハウス ウエルビー市原、デイサービスセンターぬくもり、在宅介護支援センターぬくもりなどがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指定された改善課題は、それぞれ検討し、改善に向けて進めている状況である。ユニット入り口のドアは、できるだけ長く開錠しているようにした。職員の異動による入居者への影響を最小限にする努力や、入居者本位のケアマネジメントの実践など、徐々にではあるが改善している。今後も優先順位をつけて計画的に改善活動を続けていくことが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がサービス評価の意義を理解し、自己評価に参加しているとはいえない。管理者等、幹部職員は、評価の意義を理解している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は年に4回実施し、市役所職員、入居者家族、地域住民代表、民生委員、ケアマネ、ホーム長などが参加して行われている。より一層充実した運営推進会議を実施するため、年間計画のもとで、会議の全体像や目的と意義を決定し、予定参加メンバーに事前にそれを伝えることで参加意欲を高めるなどの工夫が重要かと思われる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	手紙や電話で、随時生活状況や健康状態を報告している。外出・行事などの写真を添えることで、家族に入居者の様子を伝えている。面会時に家族から意見を聞いたり、行事の前に家族会を開催して意見を聞く機会も設けている。意見・要望はすぐに検討し、可能な限り運営に反映できるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	前回の外部評価で指摘された地域との交流は改善している。近くの公園への散歩時の挨拶や同じ敷地内にあるデイサービスとの交流を増やすことで、日常生活における地域との関わりが深まってきている。また町内会に加入し、ホーム便りや施設見学会のお知らせなどを町内会回覧に入れてもらっている。盆踊りなど地域の行事にできる限り参加するように努めている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心に「やすらぎを」というホーム独自の理念を作り上げ、家族や地域の人々にも理解を深めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はホームの理念を理解し、家庭的な雰囲気の中で人として当たり前の生活ができるよう、個別のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホーム便りや施設見学会のお知らせを町内会回覧に入れてもらっている。盆踊りなど地域の行事には、できる限り参加するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に、評価の意義が理解できているとは言い難い。しかし管理者等幹部職員は理解している。		全職員が評価の意義を理解し、皆で自己評価を作成することが望まれる。組織やケアの実情を振り返り、課題に自らが気づくことは、自己評価の意義の一つである。今後は、運営者、管理者、職員一人ひとりが外部評価に取り組むことが促される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に4回実施し、市役所職員、入居者家族、地域住民代表、民生委員、ケアマネ、ホーム長などが参加して行われている。ホームの状況報告では、認知症や高齢者介護の問題も含めて話し合いがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の運営推進会議への参加は、過去1回に留まっているが、その他ホームの運営に関することでは、様々に連絡を取り合っている。		運営推進会議へ市町村担当者が定期的に参加するようになると更によいと思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族へ手紙を出している。また電話等で、随時個々の生活状況や健康状態を報告している。手紙に行事等での入居者の写真を添えることで、家族にホームの雰囲気や入居者の様子をより生き生きと伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見を聴いている。家族会は、より多くの家族が参加できるよう行事の前に行っている。意見要望はすぐに検討し、ホームの運営に反映できるよう努めている。電話や来訪時等でも、何でも言って貰えるような雰囲気を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット固定の職員配置は行わず、全職員が両ユニットに入るようなシフトを作り、すべての入居者と馴染みの関係になるようにしている。これにより異動や離職による影響を抑えているが、離職による影響がまったく無かったわけではない。		職員の入替わりは、とかく入居者や家族に不安感を与えるものである。職員が離職する場合は、新旧職員でしっかりと引継ぎを行い、ケアに影響がでないようにすることが求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア、実践者研修、介護実技など外部研修には積極的に参加するよう、管理者が話している。しかし、職員の経験や知識に応じた研修を、計画に基づいて実施するまでには至っていない。		手の空いている職員が、その時行われていた研修に参加するのの一つの方法だが、職員個別に目標設定し、個々に必要な研修を選んで参加することは、より一層の職員育成になると思われる。内部勉強会なども役に立つと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の介護事業所との交流はある。しかし他社との交流は、管理者・現場従業者とも行っていない。		同業他社との交流は、職場内で行き詰っている事柄の解消や、緊急時の連携をスムーズにするなど、事業所や地域全体の介護サービス水準の向上にも繋がるので、検討が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>スムーズに住替えできるよう、1週間程度の体験入居を勧めたり、家族とともにホームで1日過ごして貰ったりしている。入居者本人の気持ちを大切に、安心してホームに移れるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者本人の気持ちを一番に考え、できることは自分でしてもらうようにしている。家庭での普通の暮らしを目指し、職員と入居者はともに助け合って日々を送っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、入居者の言葉にしっかりと耳を傾け、寄り添う姿が見受けられた。入居者から得られた日々のさまざまな情報の共有については、より良い方法を検討しているところである。</p>		<p>職員に話したことがきちんと伝達されていないと、入居者や家族にはストレスとなる場合もある。細かなことでも全職員にしっかり伝わるような連絡の仕組みづくりが求められる。</p>
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>チームケアに家族の意見を反映させることについては、その方法を検討しているところである。面会の際や電話等で家族と情報交換するようにしているが、もう少し話し合いの場を増やしたいと考えている。</p>		<p>あまり面会に来ず、ホームとの交流の少ない家族にも、折を見て連絡を取るようし、意見・要望の聴取をすることが期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に変化があった際はすぐに話し合い、しかるべき対応を取っている。しかしながら、介護計画書の定期的な評価・見直しの記録を見ることができなかった。</p>		<p>入居者の状態に変化が無い場合も、介護計画は定期的に見直しをすることが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎や付き添いは、家族の要望に基づいてホームで行っている。同法人のデイサービスとの交流が盛んで、夏には合同でバーベキュー大会を行っている。さらにデイと共に防災訓練をはじめ、11月には運動会、12月にはカラオケ大会も計画している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院により訪問診療を受けているが、個人のかかりつけ医を優先して医療の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	原則として、医療行為が必要になった場合は退居をお願いしている。ターミナルケアについては、ホームに看護師の資格を持つ職員がいないこともあり、現在は行っていない。		入居者・家族のターミナルケアに関する要望を把握し、ホームでの看取り希望が多い場合は、医療連携を含め、体制作りの検討が促される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の尊厳に配慮し、一人ひとりに合った声かけや対応を心がけている。個人記録は事務室で保管して、必要な関係者等に情報提供する場合は、本人・家族等の了解を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人ひとりのペースを見極め、それぞれの好みや意向に沿った支援を心がけている。日々の個人の希望をかなえられるよう、日々工夫を凝らしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはんのみそ汁はホーム内で作っているが、おかずは同法人のデイサービスと共通の給食事業者から出来上がった料理が運ばれる。そのため入居者が料理の腕をふるう機会が少なく個々の好みをメニューに反映することも難しい。	○	三度の食事は生活の楽しみの一つである。また認知症高齢者にとって食事作りに参加する意義は大きい。業者のメニューであっても、好みの反映、家庭らしい食卓の雰囲気作りが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に沿い、入浴が楽しくなるよう、工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が個々に役割を得ることによって張り合いのある日々になることを願い、裁縫・食器洗い・庭仕事など、得意分野を活かして仕事をお願いしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前と午後の散歩は日常的に行われ、入居者のほとんどが楽しんでいる。そのほか外食や買い物など戸外に出かける機会を作り、リフレッシュや身体機能の維持を図れるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さを職員は認識し、開錠している時間を少しでも増やすよう努めている。	○	昨年より開錠している時間は増えているが、入居者の行動制限にならないためにも職員間で話し合いを重ね、鍵をかけないケアのためのさらなる工夫が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者とともに避難訓練を行っている。夜間の災害の際には迅速にホーム長や近所に住む職員に連絡を取るなど、ホーム内の体制作りの他、町会に入会して地域との連携も図っている。地域住民の参加と協力を得て避難訓練を実施することも計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成している。食事量や水分量の少ない入居者には一日の目安量を決め、しっかり摂取できるよう個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のところどころにかけられた暖簾、配置を工夫された椅子やソファなどが温かい家庭的な雰囲気を作っている。また、入居者の写真、季節の催しものの案内の掲示もされている。大きな音を立てないよう職員が気を配り、穏やかでくつろげる空間作りをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が馴染んだ家具や使い慣れたもの、好みの品などが持ち込まれている。カーテンも入居者の好きなものが掛けられ、それぞれ个性的で掃除も行き届いた居心地の良い部屋になっている。		